

# それゆけ! メディカル

Lohas Medical

『ロハス・メディカル』関西版

vol. 3  
2011年 6月号

Lohas Medical 編集発行/ロハスメディア



あいあいケアプラン  
センター(P2~)の  
皆さん

「治りたい」と「治したい」を  
もっともっと近づける、  
医と健康の院内フリーマガジン



## がん 緩和ケア、 なぜ 大切な のか

年間  
特集

新連載

Dr. 長尾の  
町医者冥利



城北公園の花しょうぶ

研修医参考資料

編集発行 株式会社ロハスメディア  
編集長 熊田梨恵/発行人 川口恭  
〒107-0062 東京都港区南青山2-2-15 ウイン青山616 ☎03-5771-0073  
©ロハスメディア2011(無断転載禁止)

Art Direction & Design : Hosoyamada Design Office  
Cover illustration : 宮本ジジ  
表紙写真協力@道頓堀・中座くいだおれビル “くいだおれ太郎”  
Printed in Japan 株式会社テンプリント

# Dr.長尾の 町医者冥利

皆さんこんにちは。兵庫県尼崎市で「長尾クリニック」を開業して16年になる長尾和宏です。皆さん、開業医といったらどんなイメージ持つてはるんでしょうかね。診察室の中で白衣を着て診療してるだけじゃなくて、他にも色々なことをやっているんですよ。開業医をもっと身近に感じていただくために、ちよつと変わった活動をこのコーナーで紹介していきたいと思ひます。

新連載

## 在宅患者のお花見会

**私**のクリニックは阪神淡路大震災のあった1995年に開業しました。一般外来の他に、在宅医療にも力を入れていて、末期がんや認知症の方でも住み慣れた家で暮らしていただけるよう、往診や訪問看護、介護サービスとも連携しながら、年中無休で患者さんとご家族をサポートし

ています。

私もこれまで450人ぐらゐの患者さんを在宅で看取ってきました。その人がどんな生き方を望んでおられるのか、一人ひとりの生老病死に寄り添う医療を地道に行つていきたいと、あれこれ模索しながら取り組んでいます。私は今、約250人の在宅



患者さんに往診していただきますが、寝たきりの方や認知症の方など、外出の機会のない方も多くおられます。やはり外に出て太陽の下で新鮮な空気を吸ったり、家族以外の人と交流して刺激を受けたりすることは大事です。なるべく外出していただき

たいと思ひますが、病氣によるトラブルやケアの問題、ご家族の負担もあるので、そんな簡単にはいきません。そこで、皆さんの外出や交流の機会にさせていただきたいと思つて、在宅患者さんを対象としたお花見やクリスマス会を毎年開いています。

4月9日は4回目を迎えるお花見の日でした。クリニックから車で10分ほどのところにある藻川公園。午後2時から1時間の予定です。患者さんやご家族、上は100歳から、下は生まれたばかりの0歳まで約30人が集まつてくだ

さいました。東日本大震災の犠牲者の方々に黙とうを捧げてから始めました。お花見とはいっても、大宴会とはちよつと違いますよ。病氣で食事制限のある方もおられるので、お茶を用意していただくのです。去年は食べ物も出したのですが、やっぱり食べられない方から見たら寂しいので、今年はお茶だけにしました。そのお茶も、体を冷やさないよう火傷しないよう、ペットボトルのお茶をやかんに入れて弱火で温め直したものです。スタッフの二重三重の気配りです。

## 皆でこつこり

皆さんにお茶をお渡ししながら、歌を合唱します。生ギターで伴奏していただき、最初は私が歌いました。「島人ぬ宝」のサビの部分。「尼人」と、尼崎のカラーを出した替え歌にしてしまいました。「世界に一つだけの花」も皆さんご存じで、楽しんでいただけたよ

うです。

公園に来ていた子供が8人後ろで並んで見えています。「おいでおいで！」と私がマイクで声を掛けたら、みんなワつと集まつてきました。子供たちに囲まれて、ご高齢の患者さんたちも嬉しそうです。そんな私たちをニコニコ笑いながら撮影している人がいます。国見祐治さんといつて、長尾クリニックの行事の写真を毎回ボランティアで撮ってくれています。元々は禁煙活動キャンペーンで知り合った地元の方なのですが、彼の趣味が写真と聞き、お願いしてしまいました。彼の人柄でしようか、本当に皆さんいい笑顔で写られます。写真を患者さんやご家族にプレゼントすると、皆さん本当に喜ばれます。写真を通して元気になったり、交流が深まつたりするような癒やしをフォトセラピストと言いますが、私はまさしくそういう力のある写真だと思つています。その写真

が数カ月後にご遺影となる患者さんもおられます。普段笑われない方も、国見さんにフラインダーを向けられて、こつこりしておられます。

私が在宅でもう3年診ている認知症で末期がんの藤田英雄さん(89歳)と娘の井上好子さんも来ておられました。車いすの藤田さんはスタッフに勧められるままに前に出て娘さんと一緒に歌つておられます。2月に生死の境をさまよつたとは思えない元気な様子で笑顔!

## 診療は中断せず

このお花見で大事なのは、藤田さんのように車いすで来られる方、また一人で歩くのは難しい方々の送迎です。来る人は、家から出られないのが悩みなわけですから、当然送り迎えが必要です。この日もスタッフが運転する7台の車が、患者さんのお宅と公園を行つたり来つたり。

クリニックには私以外にも

整形外科や心療内科など8人の医師がいますし、コメディカルは看護師や保健師、ケアマネジャー、リハビリスタッフ、管理栄養士、放射線技師など総勢約100人で患者さんの医療をサポートしています。今回中心になってくれたのは、約10人の訪問看護師チームです。前日からロープを張つて場所取りしてくれて、音響設備や飲み物、いすなどすべて準備してくれました。

でもこの間、クリニックが開いていないわけではないんです。みんな仕事の合間を縫つて参加してくれていますけど、クリニックは年中無休なので、お花見や送迎をしている間は別のスタッフが訪問や外来をしてきているんですよ。お花見に来ているスタッフも、終わったらみんなその足で訪問に出かけます。スタッフ同士でサポートし合つて、患者さんやご家族のためにやってくれています。

1時間はあつという間です。



皆さん、いい笑顔でした。